

【別表 J-3】 平成 31 年度 施設・観測機器・実験装置等一覧表

本表の詳細については共同利用 HP (<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/kyodoriyou/>) をご参照ください。

本施設、機器、装置を利用し、研究成果を論文等で発表される場合は、謝辞に、以下の東京大学地震研究所共同利用により援助を受けた旨を記載することが、義務となります。また、その別刷やデータ (PDF、配布元 URL 情報でも可) などを、本研究所の研究支援チーム (共同利用担当) へ必ず提出してください。

(謝辞記載例: 共同利用コード「2009-F-01」の施設・観測機器・実験装置を使用した場合)

【英文】: This study was supported by ERI JURP 2009-F-01.

【和文】: 本研究は東京大学地震研究所共同利用(2009-F-01)の援助を受けました。

(観測施設)

共同利用コード及び名称	観測施設に関する情報	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2019-F1-01 筑波地震観測所 油壺地殻変動観測所 鋸山地殻変動観測所 和歌山地震観測所 広島地震観測所 弥彦地殻変動観測所 堂平地震観測所 信越地震観測所 富士川地殻変動観測所 室戸地殻変動観測所 本所周辺観測施設・観測設備	鋸山 : http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/GOP/ngy.html 和歌山 : http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/WSO/index.html 富士川 : http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/fujigawa/indexJ.html 室戸 : http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/GOP/Mrt/indexM.html	○未定 (次期管理者が現時点では未定であり、決定次第 Web サイトで更新予定)		
2019-F1-02 八ヶ岳地球電磁気観測所		○小河勉	事前に担当教員と打ち合わせる。	随時
2019-F1-03 浅間火山観測所 小諸地震火山観測所 伊豆大島火山観測所 霧島火山観測所		○未定 (次期管理者が現時点では未定であり、決定次第 Web サイトで更新予定)		

(野外观測機器等)

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番、台数、機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2019-F2-01 衛星通信等を用いた全国地震観測システムデータ受信専用装置	http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyou/data_jushin_riyuu.htm	○酒井慎一	設置、設定、維持は利用者で行うことが条件であるが、事前に担当教員と打ち合わせる。別途、データ受信に関する利用申請が必要。	随時

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番、台数、機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2019-F2-02 移動用地震観測機器 (衛星・地上テレメータ装置、地震計、データロガー)	http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyou/vsat_riyou.htm http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyou/chijo_souti.htm	○酒井慎一	担当教員とよく連絡をとること。特定共同研究で使用中は利用できないことがある。	随時
2019-F2-04 高精度広帯域 MT 観測装置	Metronix 社 1)本体部 ADU07e 観測装置 19 台 ADU08e 観測装置 2 台 2)誘導コイル MFS06 24 本 MFS07 4 本 MFS06e 16 本 MFS07e 30 本 Phoenix 社 1)誘導コイル MTC50 3 本 磁場 3 成分、電場 2 成分を測定可能。サンプル周波数は、ADU07(e)は 524KHz より 2^n Hz. Phoenix 社の装置はコイルのみ。 あわせて、電位測定用電極(ハンガリーML タイプ)、リチウムバッテリー、大容量鉛蓄電池(G&Yu SMF27MS-730)などの付属品も多数貸出可能。	○上嶋誠	事前に担当教員と打ち合わせること。共同観測等で使用中の期間を除く。	随時
2019-F2-05 長基線電位差測定装置	アドシステム社 8 チャンネル 20bit 地電位差測定装置 SES93 約 20 台と同社データ転送ユニット SESNET93 約 20 台。 サンプル間隔は 0.1, 1, 10s.	○上嶋誠	事前に担当教員と打ち合わせること。共同観測等で使用中の期間を除く。	随時

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番、台数、機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2019-F2-06※ <u>海底地殻熱流量測定装置一式</u>	複数の温度センサーを取り付けたプローブを海底に突き刺すことにより、温度勾配を測定し、地殻熱流量を求めるための装置一式。 重錘、プローブ、温度センサー、データロガー、ピンガーからなる。 この他、別途採取した海底堆積物の熱伝導率を測定するための、「迅速熱伝導率計」（京都電子 QTM-500）も利用可能である。	○山野誠	同種の装置の使用経験者または共同研究に限る。	随時
2019-F2-07 可搬型広帯域地震観測システム(1)	広帯域地震計：CMG3T, STS2 収録計：REKTEK130 合計 40 セット	○川勝均	取得したデータは、観測終了後一定期間（2~3 年）の後、地震研究所・海半球観測研究センター・データセンターから公開することとする。 事前に担当教員と打ち合わせる。	随時
2019-F2-08※ <u>可搬型広帯域地震観測システム(2)</u>	ナネメトリクス社（カナダ） 広帯域地震計 Trillium120PA 保有台数 14 台	○及川純	事前に担当教員と打ち合わせる。	随時
2019-F2-09※ <u>絶対重力計</u>	Microg-LaCoste（米国） FG5 型絶対重力計 公称精度 1-2microgal	○今西祐一	事前に担当教員と打ち合わせる。	随時
2019-F2-10※ <u>ラコステ重力計および重力解析ソフトウェア</u>	LaCoste&Romberg 社（米国） スプリング型相対重力計（陸上用） 公称精度 10microgal	○今西祐一	貸出しの際、必要に応じて講習を受けること。	随時

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番、台数、機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2019-F2-11※ <u>可搬型強震観測システム</u>	可搬型強震観測システム (SMAR-6A3P 改) アンプ搭載筐体×16 台 (センサーは全てアカシ製 JEP-6A3P ; 1V/G) アンプ無し筐体×5 台 (センサーは全てアカシ製 JEP-6A3P ; 10V/G) ロガー 白山工業製 LS-7000XT×10 台 ロガー 白山工業製 LS-7000×10 台 ※筐体とロガーを組み合わせ て 1 式として貸し出します。 ※貸出可能最大数 20 式 ※アンプゲインは 1, 20, 50, 100 倍と 0.1, 1, 10, 100 倍の 2 段組み合わせの掛け算となり ます。	○額綱一起	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時
2019-F2-12 火山ガス観測システム		○及川純	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時
2019-F2-13 超長周期電磁場測定装置	ウクライナ製フラックスゲー ト磁力計 MT 観測装置 LEMI-417 6 台 磁場 3 成分、電場 4 成分を毎 秒で測定可能。	○上嶋誠、清 水久芳	事前に担当教員と打ち合 わせること。共同観測等 で使用中の期間を除く。	随時
2019-F2-14 高精度方位決定ジャイロ装 置	SOKIA 社製 GP1X 手動ジャイ ロステーション一式 測定精度は 20 秒角。	○上嶋誠、清 水久芳	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時
2019-F2-15※ <u>深海用 3D 流向流速計測シス テム</u>	NORTEK 社製 Aquadopp-6000m 1 台 (http://www.nortek-as.com/en/pr oducts/CurrentMeter/Aquadopp 6k) 上記のドップラー方式流向流 速計とチタン球トランスポン ダシステムを組み合わせ、流 速計へ外部電源供給すること で 10 秒間隔・1 年程度の観測 を可能とした、自己浮上型の 海底観測システム。流速計を 単体で使用することも可能。	○塩原肇	事前に担当教員と打ち合 わせること。	随時

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番、台数、機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2019-F2-16 高精度広帯域電場観測装置	NT システムデザイン社製 Elog1k 型広帯域 2 成分電場測定装置 1024Hz, 32Hz にて 24bit で電場を測定。 低消費電力 (1.8W)	○上嶋誠	事前に担当教員と打ち合わせる。	随時
2019-M-01 特定機器・レナーツ地震計 (1 Hz)	LE-3Dlite MkII 30 台 LE-3Dlite MkIII 44 台	○酒井 慎一	2 ヶ月未満の貸出のみ。2 ヶ月以上の長期貸出を希望する場合には、前年度 6 月頃に行われる公募に申請すること。	随時
2019-M-02 特定機器・低消費電力型データロガー	HKS-9700a-0505 30 台 LS-8800 44 台	○酒井 慎一	2 ヶ月未満の貸出のみ。2 ヶ月以上の長期貸出を希望する場合には、前年度 6 月頃に行われる公募に申請すること。	随時
2019-M-03 特定機器・広帯域地震計	Trillium-120PA 6 台	○酒井 慎一	2 ヶ月未満の貸出のみ。2 ヶ月以上の長期貸出を希望する場合には、前年度 6 月頃に行われる公募に申請すること。	随時
2019-M-04 特定機器・Nanometrics データロガー	Centaur digital recorder 6 台	○酒井 慎一	2 ヶ月未満の貸出のみ。2 ヶ月以上の長期貸出を希望する場合には、前年度 6 月頃に行われる公募に申請すること。	随時
2019-M-05 特定機器・広帯域地震計	TS17840/Trillium-120PA 9 台	○酒井 慎一	2 ヶ月未満の貸出のみ。2 ヶ月以上の長期貸出を希望する場合には、前年度 6 月頃に行われる公募に申請すること。	随時
2019-M-06 特定機器・地震火山観測用計測ユニット	LF-1100R/LF-2100R 9 台	○酒井 慎一	2 ヶ月未満の貸出のみ。2 ヶ月以上の長期貸出を希望する場合には、前年度 6 月頃に行われる公募に申請すること。	随時

(室内実験計測装置等)

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番、台数、機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2018-F3-01 制御震源装置一式	IVI 社製小型バイブレーター 震源 T-15000	○佐藤比呂志、石山達也	機器の取り扱いに習熟していること。事前に担当教員と打ち合わせが必要。	随時
2019-F3-02 地震火山情報センター計算機システム	http://www.eic.eri.u-tokyo.ac.jp/computer/manual/eic2015/	○地震火山情報センター長	学術研究と認められないもの、本所設置目的から著しく外れているものは利用できない。詳細は本センター利用規定による。共同利用経費を必要としない場合は、直接本センターに利用申請する。	随時
2019-F3-03 岩石破壊実験装置一式 荷重及び変位信号 AD 変換・処理装置	http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/gijyutsubu/jikken/	○吉田真吾、中谷正生	事前に担当教員と打ち合わせが必要。	随時
2019-F3-05 蛍光 X 線分析装置	RIGAKU 社製 波長分散型蛍光 X 線分析装置 ZSX Primus II http://www.rigaku.com/ja/products/xrf/primus2	○安田敦	事前の講習会を受講していること(年 2 回開催予定)。実験用消耗品については各自用意すること。	
2019-F3-06※ <u>地震計測定震動台</u>	エミック社振動試験装置 F-1400BD/LAS15 水平あるいは垂直の 1 軸電磁式振動台。	○新谷昌人	使用説明と日程等の調整のため事前に担当教員に連絡すること。装置は自己運転を原則とする。	随時
2019-F3-07※ <u>レーザー発振装置</u>	ネオアーク社波長安定化レーザー 波長 633nm の赤色光の安定化レーザー光源。	○新谷昌人	事前に担当教員と打ち合わせが必要。	随時
2019-F3-08 全国地震データ等利用システム装置		○地震火山情報センター長	全国の地震波形データ等を整備し提供する装置。地震観測を実施している全国の大学に設置され共同で運用されている。担当教員との相談による。	随時

共同利用コード及び名称	機器に関する情報 (型番、台数、機器情報 URL 等)	担当教員 (○責任者)	利用条件等	申請 期限
2019-F3-09 カールフィッシャー水分計	京都電子工業株式会社製 カールフィッシャー水分計 (電量滴定方式) <MKC-610> http://www.kyoto-kem.com/en/product-category/karl/ 鉍石用水分気化装置 <ADP-512> http://www.kyoto-kem.com/ja/product/adp512/	○三部賢治	機器の取り扱いに習熟していること。事前に担当教員との打合せが必要。実験消耗品については各自用意すること。	随時
2019-F3-10 湿式レーザー粒度分析計 (室内実験計測装置)	Sympatec 社製レーザー回折式 粒度分析装置 HELOS/KF-RODOS-QUIXEL システム http://www.sympatec.com/JP/LaserDiffraction/f-series/HELOS.html	○前野深	使用説明と日程等の調整のために事前に担当教員との打合せが必要。	随時
2019-F3-11※ <u>温度計校正器一式</u>	フルーク社 1586A, 9142, 7103 他 恒温槽 (-30℃から 150℃) や 温度計の出力信号をスキャン する一連の機器。	○中谷正生	使用説明と日程等の調整のため事前に担当教員に連絡すること。装置は自己運転を原則とする。	随時

※地震研共同利用 HP にて、写真やカタログ等、より詳細な情報を掲載しています。

【別表 J-4】平成 31 年度 データ・資料一覧表

地震研究所の「公開データベース」<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/publication/> もご参照ください。

本施設、機器、装置を利用し、研究成果を論文等で発表される場合は、謝辞に、以下の東京大学地震研究所共同利用により援助を受けた旨を記載することが、義務となります。また、その別刷やデータ(PDF、配布元 URL 情報でも可)などを、本研究所の研究支援チーム(共同利用担当)へ必ず提出してください。

(謝辞記載例：共同利用コード「2009-D-01」のデータ・資料を使用した場合)

【英文】：This study was supported by ERI JURP 2009-D-01.

【和文】：本研究は東京大学地震研究所共同利用(2009-D-01)の援助をうけました。

共同利用コード及び名称	担当教員(○責任者)	利用条件、データ及び資料に関する URL 等	申請 期限
2019-D-01 WWSSN 地震記象マイクロ フィルム/フィッシュ	○古地震・古津波記録委 員会 (佐竹健治)	要予約。用紙等については予約時に問い合わせ て欲しい。 <a href="http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/wwssn/filmli
st.html">http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/wwssn/filmli st.html	随時
2019-D-02 歴史地震記象	○古地震・古津波記録委 員会 (佐竹健治)	原則としてマイクロフィルムを利用。原記録は 職員立ち合いのもとで利用すること。 http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/susu/	随時
2019-D-03 旧測候所報告・古新聞切抜 き・国際地震観測報告等	○古地震・古津波記録委 員会 (佐竹健治)	資料室でコピー可。 旧測候所報告： <a href="http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/record-J/inde
x.html">http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/record-J/inde x.html 国際地震観測報告： <a href="http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/record-W/ind
ex.html">http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/record-W/ind ex.html	随時
2019-D-04 観測開発基盤センター地震 データ	○未定 (次期管理者が現 時点では未定であり、決 定次第 Web サイトで更 新予定)	大学間の取り決めに基づいて利用すること。	
2019-D-05 衛星通信等を用いた全国地 震観測システムデータ受信 利用	○未定 (次期管理者が現 時点では未定であり、決 定次第 Web サイトで更 新予定)	「衛星通信地震観測システムデータ受信利用規 定」に基づいて申請すること。(様式 S-1) <a href="http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyo
u/data_jushin_riyou.htm">http://eoc.eri.u-tokyo.ac.jp/eisei_system/riyo u/data_jushin_riyou.htm	
2019-D-06 国立大学微小地震観測網カ タログ(JUNEC)	○地震火山情報センタ ー長	震源データは anonymous FTP で利用可。 ftp://ftp.eri.u-tokyo.ac.jp/pub/data/junec/ 検測データは大学間の取り決めに基づいて CD にて提供可。(ただし、担当教員に利用申 請を提出のこと)。	随時
2019-D-07 浅間、伊豆大島、霧島、富 士の火山データ	○火山噴火予知研究セ ンター長	事前に担当教員と打ち合わせること。	随時
2019-D-08 広帯域地震波形データ(1)	○海半球観測研究セン ター長	特になし。 <a href="http://ohpdm.eri.u-tokyo.ac.jp/dataset/per
manent/seismological/index.html">http://ohpdm.eri.u-tokyo.ac.jp/dataset/per manent/seismological/index.html	随時

共同利用コード及び名称	担当教員(○責任者)	利用条件、データ及び資料に関する URL 等	申請 期限
2019-D-10 新 J-array 地震波形データ	○地震火山情報センタ ー長	ホームページから利用可。 http://jarray.eri.u-tokyo.ac.jp/	随時
2019-D-11 1993 年日光周辺域合同地 震観測データ	○未定（次期管理者が現 時点では未定であり、決 定次第 Web サイトで更 新予定）	1993 年合同観測参加者。	随時
2019-D-12 強震記録（主として駿河湾、 伊豆半島観測網、足柄観測 網のデータ）	○瀬瀬一起	http://smsd.eri.u-tokyo.ac.jp/smad/	随時
2019-D-13 歴史地震の古文書及びその 解説文	○佐竹健治	特になし。 「東京大学地震研究所図書室特別資料データ ベース (http://www.eic.eri.u-tokyo.ac.jp/dl/meta_public/G0000002erilib)」のうち、コレクション名 02 (-1, 2, 3)の地 震史料のオリジナル（複写）と解説文。	随時
2019-D-14 地球電磁気データベース	○上嶋誠	事前に担当教員と打ち合わせること。	随時
2019-D-15 八ヶ岳地球電磁気観測所速 報データ	○小河勉	事前に担当教員と打ち合わせること。	随時
2019-D-16 地殻熱流量データセット	○山野誠	特になし。 日本列島を含む北西太平洋地域の地殻熱流量 データをまとめたものである。 対象範囲は北緯 0～60 度、東経 120～160 度で、 フィリピン海、日本海、オホーツク海の全域を カバーしている。データファイルに含まれる項 目は、測点名、緯度・経度、標高または水深、 温度測定点数と最大深度、温度勾配、熱伝導率 とその測定数、熱流量、及び文献とその出版年 である。原則として、公表されている測定値を そのまま収録しているが、熱流量の値が 0 以下 のものは除いてある。潜水船・ROV を用いて 測定した値、及びガス・ハイドレートによる音 響反射面の深度から推定した値は含めていな い。	随時
2019-D-17 日本全国空中写真	○図書室	活断層調査や地震・火山・テクトニクスなどの 研究のためであること。図書職員に申し出て利 用すること。 http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/airphoto/shiryo_ushitu.htm	随時

共同利用コード及び名称	担当教員(○責任者)	利用条件、データ及び資料に関する URL 等	申請 期限
2019-D-18 津波波形画像データ	○古地震・古津波記録委員会（佐竹健治）	地震研の公開データベースの津波波形画像検索システム http://www.eic.eri.u-tokyo.ac.jp/tsunamidb/ より申請して利用すること。利用資格は地震研究所共同利用に準ずる。	随時
2019-D-19 首都直下地震防災・減災特別プロジェクトデータ	○酒井慎一	事前に担当教員と打ち合わせること。 http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/shuto/index.html	随時
2019-D-20 超伝導重力計観測データ	○今西祐一	事前に担当教員と打ち合わせること。	随時
2019-D-21 都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクトデータ	○酒井慎一	事前に担当教員と打ち合わせること。 http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/project/toshi/	随時